



私の街で見つけた やさしさ

好文学園女子高等学校 1年

おお くら み く
大倉 未来

私が調査をした場所は、阪神電車の阪神なんば線にある福駅です。この駅は、私が小さい頃から今でもずっと使い続けている、とてもお世話になっている駅です。だからこそ、この駅にはどのような「やさしさ」があるのか気になったので調べてみることにしました。

最初に、駅の入口付近を調べました。きつぶ売り場には、券売機の隣に点字運賃表があります（写真1）。これは目の不自由な方のために、点字による運賃表示が行われています。これにより、目の不自由な方でも分かるようになっています。改札口では、一番端にある改札の幅が広くなっています（写真2）。車いすを使用されている方や、大きな荷物を持っている方、お子様連れの方やベビーカーを押されている方などが通りやすくなるようにされています。また、触知図式案内板が設置されており、目の不自由な方に、点字等により駅の構内図を表示できるようになっています（写真3）。

次はホーム内を調べました。難波方面行のホームでは、改札を抜けるとホームに上がるためのスロープがあります（写真4）。反対の尼崎方面行のホームでは、改札口が上にあるので、そこに行くまでにスロープがあります。階段を使えない人のために誰でも上がりやすいように設置されています。また、福駅はほかの駅と違い高架化されていないので、エスカレーター・エレベーターがありません。でも現在、高架化への工事が行われているので、今後できるかもしれません。

次に、誘導・警告ブロックが設置されています（写真5）。黄色い線は、目の不自由な方の重要な誘導案内設備となっています。目の不自由な方が白杖などでブロックにある突起をたよりに、進んだり止まったりすることができます。ホームから転落することができないように、大変重要な役目を果たしています。私たちは、普通にブロックの上に荷物を置いたり、立ったりしてしまって、せっかくの安全を守ろうとしている「やさしさ」を消してしまっているので、気を付けて、行動を改めていかないと感じました。

最後に、トイレについてです。トイレは、バリアフリートイレになっており、両ホームに設置されています。以前までは、片方のホームにしかトイレがない状態で、行きたくてもいけませんでした。それをふまえると今はもう片方にも設置され、「やさしさ」が増えたなど実感しました。バリアフリートイレは入口が大きいので車いすの方でも入りやすく、扉がスライド式で開きやすくなっています（写真6・7）。身体が不自由な方や乳児などのお子様連れの方でも使いやすいように対応されています。

私は、この調査を通して、駅にはたくさんの人の思いが詰まった「やさしさ」があると感じました。「やさしさ」があるからこそ人々は生活できるし、生きていけると実感しました。私は、これから困っている人がいたら自ら「やさしさ」を表せる人間になり、「やさしさ」であふれる大阪市にしたいです。



写真1 点字運賃表



写真2 一番端が広くなっている改札

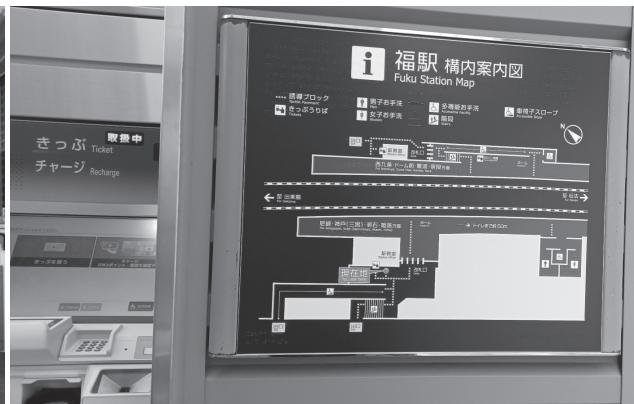


写真3 触知図式案内板



写真4 スロープ



写真5 誘導・警告ブロック



写真6 バリアフリートイレ



写真7 バリアフリートイレ